

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会会議録

			記録者		スポーツ推進課 係長 染谷 優一	
供 覧	部 長	次 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員
件 名	令和6年度第2回スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会会議録					
日 時	令和6年12月24日（火）午後1時30分～午後3時00分					
場 所	龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室					
主 催 者	龍ヶ崎市長 萩原 勇					
出 席 者	[委員] 田畑亨会長、橘川栄作委員、塚本裕委員、荒井久仁夫委員、木村忠夫委員、櫻井円香委員、浅野美玲委員、渡部桂太委員、湯原加那子委員、後藤泉委員					
	欠席委員…望月進委員					
	[市] 足立健康スポーツ部長、佐々木健康スポーツ次長、昇スポーツ推進課長、木村課長補佐、記録者					
	[令和6年度スポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進支援事業業務委託受託事業者] デロイトトーマツコンサルティング合同会社					
傍聴人の数	1名					
会議の内容	議 事 (1) スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）について					
情報公開	公 開	非公開（一部非公開を含む）とする理由				
	部分公開 非 公 開	公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）		年 月 日		
	発言の内容（要旨）					
事務局	〔開会〕 定刻となりましたので、ただいまより、令和 6 年度第 2 回スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会を開会いたします。 本日は、年末のお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。第 2 回の審議会については、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想のアクションプランまでまとめたものに対し、委員の皆様の意見をいただくものです。よろしくお願いいたします。 まず、委員の出席状況ですが、本日望月委員がご都合により欠席との連絡をいただいております。それ以外の委員の皆様は、ご出席いただいておりますので、定数に達しており、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。 ここで第 1 回の会議でご欠席であった委員のご紹介をさせていただきます。 拓殖大学商学部教授の松橋委員でございます。続いて龍ヶ崎市商工会会長の塚本委員でございます。最後に、龍ヶ崎市スポーツ協会副会長の荒井委員でございます。よろしくお願いいたします。 なお、当審議会は「龍ヶ崎市附属機関の会議の公開に関する条例」に基づき、公開となっており、本日は 1 名の傍聴の方がいらっしゃいますことをご報告させていただきます。傍聴される方におかれましては、ご静粛に傍聴いただきますよう、お願いいたします。 会議の際には、携帯電話の電源を切るか、マナーモードにして頂きますようお願い申し上げます。 次に、議題に入る前に、本審議会の会議録の作成に関してですが、会議録は会議					

	の公開と同様、当市の条例により一般に公開することとなっております。会議録を作成するにあたって、会議録には、原則、発言者の氏名を記載するようになっておりますので、委員の皆様には、あらかじめご了承くださいと思います。 また、発言の際には、目の前のマイクのボタンをオンにしてから、発言いただきますようお願い申し上げます。 それでは、会議の次第に従って議事に移りたいと思います。 進行につきましては、田畑会長をお願いいたします。
田畑会長	皆さん、改めましてこんにちは。 年末のお忙しいなか、また世の中はクリスマスイブという日に、第2回の審議会を開催する運びとなりました。クリスマス寒波の影響に伴い、ぐっと気温が下がってきておりますため、体調を崩しやすい時期となりましたので、委員の皆さんにおかれましては、体調管理にご留意いただければと思います。 それでは、次第に沿って、議事を進行いたします。皆様、円滑な進行にご協力をお願いいたします。 議題に入る前に、本日の会議における会議録の署名人の選任ですが、櫻井委員と後藤委員をお願いしたいと思います。 では、ここから議題の審議を行ってまいります。 前回の会議に続き、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）について」でございます。 まずは、事務局から説明をお願いいたします。 事務局からの説明後に、皆様からご意見をいただきたいと思います。
事務局	〈事務局から説明〉
田畑会長	ただいま、事務局から説明がありましたが、この内容に基づいて皆さんからご意見やご質問等あれば、挙手にて目の前にあるマイクのボタンを押した上で、ご発言くださいますようよろしくお願いいたします。 いかがでしょうか。
後藤委員	スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会に参加する上で、自分自身がスポーツクライミングを経験したことがないため、まず今年市が実施した龍ヶ崎まちづくり市民アンケート調査結果をベースに、市民に関心があることをどうスポーツクライミングに活用できるか自分なりに考えてみました。 市民アンケートの最後のページあたりに、龍ヶ崎市では何が足りないのか、例えば交通の便が悪いとか駅前が寂しい、イオンモールを誘致してほしいとか個人的な意見もあると思いますが、それに対しておそらく都市として個性とか特徴がないということで、事務局の方で企画して現在進められていらっしゃるかと思います。 その他、市民が好きな場所として1番目がたつのこやま、2番目が牛久沼という結果が出ていますので、例えば市民が好きな場所として感じているのであればこの場所を中心に、スポーツクライミングの場所等を検討してみるのも良いのかなと思います。 事務局の案で、数年後のアンケートで前回よりもポイントが落ちている子育て世代の運動量が減っているということですが、そうすると中高年や高齢者がスポーツクライミングで日常の運動ということで結びつかないとやはり将来的に定着していかないと思います。大会等だけ開催しても一般市民の感覚としては、ただそういうものをやっているんだと思って他人事で終わってしまうので、自分や周辺の人々がクライミングを生活の一部として行えている状態になれば、龍ヶ崎市がスポーツクライミングのまちということが定着するのだと思います。 それこそ中高年から高齢者にもスポーツクライミングってどうやって楽しんでいるか、親しんでいるかということを1項目追加していただけると良いかなと一市民として感じたところです。
田畑会長	ありがとうございます。今、二点お話をいただきました。いわゆる場所の設置と少し専門的にいえば、中間層のスポーツ実施率というところだと思いますが、みんなが賑わう場所にクライミングウォールを設置することが重要であると思います。 やはり30～40代の実施率というのは、龍ヶ崎のみならず全国的に課題となっているわけなので、この年代層がいかにして実施していく上で、全体的の取組の中で後

	藤委員がおっしゃるように、きっかけを作ってクライミングが定期的に取り組んでいけるかという意見がございました。 ほかにございますか。
塚本委員	今の後藤委員のお話に関連したのですが、龍ケ崎市がスポーツクライミングのまちにするためには、ものすごく大変な事でかなりの時間がかかると思います。 この構想の中に記載されている小学校よりむしろ幼稚園の時に体験できる環境が必要であると思います。 静岡県の掛川市では、幼少期で歩き始めの時期からボールを蹴っている、つまりよちよち歩きから高齢者までボールを蹴っている環境が定着しているからこそ、スポーツのサッカーが盛んであるまちになっているわけです。 その他、岩手県の釜石市では、幼少期からラグビーボールをパスして遊んでいる、そういう環境を作ってあげることが大切で、龍ケ崎市でも全幼稚園に本当に小さなウォールでもいいから作ってあげることが、周りから龍ケ崎市の幼稚園はクライミングをやっているんだと話題になれば、マスコミも取り上げてくれると思いますし、そういう環境を整えてあげることが大切なのかなと思います。 この事業を進めていく上で、主体はどこで進めていくのか。例えば協議会のようなものを設立していく考えはあるのでしょうか。
田畑会長	資料にもありますアクションプランの中で、基本構想の最後のページにも記載されていますが、基本構想策定後、協議会を設立していくということです。 この構想に基づいて運用していくことになるかと思います。それぞれアクションプランの項目 1～10 まで、ステークホルダーの部分でスポーツ推進課をはじめ、関係団体の協力を得ながら進めていくことになるかと思います。
塚本委員	わかりました。いずれにいたしましても、幼少期から環境を整えてあげることが大切になってくるかと思います。この事業を令和 6 年度～8 年度にかけて形にしていこうかなと思います。大変失礼な言い方になってしまいますが、龍ケ崎市としてどこまで本気で取り組んでいく気があるのか、それによって方向性が変わってくるのかなと思います。
田畑会長	ありがとうございます。第 1 回会議の時も意見として出しましたが、中間層の運動実施率が低いというのは、やはり幼少期から昔でいえば木登りをしたような基本的な体力向上の部分だったり、親しみやすい環境を整えながら機運を高めていく必要があると思いますので、いただいたご意見等を構想に策定する上で参考にしていただければと思います。 他にご意見等がありますか。
荒井委員	先程、幼少期から環境を整えていく必要があるというお話を伺いましたが、もうすでに取組を行っているスポーツフェスティバルやスポーツレクリエーションまつりのような機会、子どもたちが体験していく機会を増やしてあげれば良いのかなと思います。 因みに、現在はスポレクまつりについては、市が主催になったのでしょうか。
事務局	スポーツ協会のほかにスポーツ推進委員協議会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の 4 つの団体で構成された実行委員会が主催で開催しておりまして、クライミングについては、ニューライフアリーナ龍ケ崎でも体験できるような形になっております。
荒井委員	分かりました。そのような団体と連携して子どもたちが関わっていく仕組みが必要ではないかと思います。そうすると親も参加するようになり、うまく広がっていけば中間層の年代にも繋げていけるのではないかと思います。 時間がかかるかもしれませんが、団体との連携なども少し考えながら進めていければいいなと思います。
橘川委員	非常によくできたアクションプランだと思いますが、結局、誰が組織として継続していくのか、人・カネの問題であったり、ボトムアップで子どもたちからやっていこうとするのは誰もが考えることですが、やはりシンボリックな大会を誘致していく、それは観ることもできるし参加することもできるということと考えていくと、トップダウンとしてそのようなものを誘致していく必要があると思います。 例えば、国体等を誘致する時には、組織を作り、人を集めてしっかり纏められる

	人間がいて、そういう大きい大会に向かってやっていくようなシステムを構築していくことが必要だと思います。もちろん先程から意見が出されたボトムアップも大賛成なのですが、シンボリックなまちづくりをしていくには、やはり大きな大会を誘致して場所も含めて全国から人が集まるような企画をして、それを行っていくための組織として立ち上げていく方法が良いのかなと思います。 あとはお金ですね、それをどう集めていくか考えていかないとなかなかうまくいかない、例えば、茨城県でいうと国体をやりますと決めてから 6 年くらいかけて事務局を立ち上げていろいろな市町村と調整しながら進めていきましたが、それをしていくことによって、それなりに根付いていくと思っているので、シンボリックな大会を誘致しながら底辺も拡大していくと産業振興にも繋がってくると思います。 それと先ほども申し上げたように人と組織ですね、どういう事務局体制でそれを継続して常駐して運営できる組織を作らないといけないと思います。協議会で不定期に集まってやっていくよりもしっかりとした組織として、例えば推進室などを作って集中的に行政もやっていかないと民間に好きなようにやってねといってもそれは難しいと思います。 一言でいうと組織・人それをどうするか。どういうイベントをやってそれに対してどういうお金を集めたり作っていったりするか、それをどう長く継続するかをやっていった方が早いと思います。そうすることによって、周りからずっと龍ケ崎市でクライミング大会をやっているのだと思われることが出発点だと思います。 サッカーでのまちづくりとかいろいろ話が出ていましたが、全員が興味持つわけではないし、市民のパイを増やすことは大事ですが、観てて楽しい、参加して楽しいと思える大きな大会を誘致していくことが大切かなと思います。 特に、龍ケ崎市の場合は素晴らしい選手もいますから、そのようにやっていけたら良いかなと思います。 組織と人、カネ、継続性、シンボリックな大会の誘致みたいなものをぜひ進めていければ良いかなと個人的には思っています。
田畑会長	ありがとうございます。とてもすごく貴重な意見をいただきました。 今ご説明した中で、前回渡部委員から色々クライミングに関するようなお話をいただいた中で、やはり人材確保というのが非常に大事であるといったところで、実際にこのアクションプランを拝見する中で、項目で 9 番目の人材確保というところのいわゆる指導者の養成や人材確保等について個人的には早急に取り組むべきことなのかなと思います。 因みに、アクションプランの中で、令和 8 年度に行う理由というのは何なのか、個人的には令和 7 年度から取り組んでいった方が良いかなと思いますが、想定した理由について事務局からお聞かせいただければと思います。
事務局	人材につきましては、まずソフト事業をどういうことをやっていくのか、ハード的な部分というのもありますし、指導者を呼んでも練習する場所が少ないとなかなか難しいというのがあります。大会誘致に向けてどのように情報発信を行っていくのか、どういった取り組みを行っていくかを決めた上で、こういう人材が適しているといった流れになると思います。また、1 人で全てを行っていくことは現実的になかなか難しいので、やれるところからやっていくということで考えております。令和 7 年度は何もやらないというわけではなく、検討しながら進めていって、例えば令和 8 年度から選任して、令和 9 年度からそういった人材を受け入れるようなところで考えております。
田畑会長	ありがとうございます。他の委員で何かご意見あればお願いいたします。
渡部委員	アクションの 9 の部分で、クライミングの人材以外に、例えば SNS の発信の部分で、魅力発信が上手い人を登用しても面白いのかなと思います。 人材確保で定めているすべての項目を達成できる人は、世の中見ても誰ひとりいないと思いますので、この要素のどこの部分を重視するか、結局のところアクションプランの実行をできる人を募集するのが現実的なのかなと思います。
田畑会長	手段として地域おこし協力隊を活用しながら進めていくということですね。 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。
渡部委員	もう一つ幼稚園の事例で、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、市内の

	愛宕幼稚園にクライミングウォールがあります。現在の園長先生が 2、30 年前に仕事をしながら趣味でクライミングをされていて、先代から幼稚園を受け継いだタイミングで空き部屋を活用してクライミングウォールと遊びの部屋を作ったそうです。かなり簡易的な壁に立てかけるようなシステムなので、高さも子どもが登る分には問題ないし、キット化されたものが市販されているので、それを購入して組み立てしているものになります。その事業を開始して 3 年ですかね、おそらく入園して 1 年目の子が卒園したくらいの期間が経っていると思うので、そういう事例を参考にしても良いかと思います。
田畑会長	ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。
松橋委員	スポーツまちづくり等に関する事柄について、10 年くらい専門で研究してきましたが、スポーツのまちと言っているまちが全国にたくさんある中で、だいたいですね、ほぼ例外なく先ほど橘川委員からありましたが、スポーツメガイイベント、国体、ワールドカップ、オリンピックに関連して機運が高まる、これは開催するだけではなくて、20 年前くらいにカメルーンのキャンプの受け入れを行った大分県の中津江村、現在は日田市ですが、カメルーンを呼んだだけでものすごく複合的な効果があった、そこからスポーツ合宿のまちになりましたが、そういうスポーツメガイイベントを呼んで、それをまち全体が開催に向けてバックアップすることで、スポーツのまちになっていくパターンがあります。 もう一つのパターンは、先ほど岩手県釜石市のラグビーチームの話がありましたが、秋田県能代市のバスケットボール等、プロスポーツが全国津々浦々ありますので、やはり強いプロスポーツ等があるとまちのシンボリックな存在になっているのかなと思います。逆に言えば、ボトムアップでやっていくだけだとなかなか何とかなのまちというのが作りにくい、先程の話を聞いていてもそこだけで突破するのがなかなか難しいのかなと思っています。 やはりトップアスリート、チームもメガイイベントのポイントは、トップアスリートが来て彼らが本気でやっている姿を見て、応援して彼らがその地域から離れても追いかけるわけです、オリンピックで活躍している姿をパブリックビューイングで観戦したりすることが重要なのだと思うと思います。 今回のユース大会を開催するというのは、先ほどの会議の冒頭で野口さんからお聞きして初めて知りましたが、そういう大会の機会をいかに機運醸成としてどう使っていくのか考えていった方が良いと思います。ただやるのではなくて市民や事業者を巻き込んでいくことはすごく大事で、本当にこのワールドカップとかを呼ぶのはすごく大変だと思いますが、そういうところに照準を合わせながらやっていると、おのずとボトムアップも成り立っていくのかなと思います。組織の部分は、間違いなくポイントだなとアクションプランを拝見して思いますし、その部分は委員の皆様がおっしゃるとおりかなと思います。 色々事例見てきた中で、今回こういう形でのスポーツのまちを作るというのは、本当はかなりこれまでにはないチャレンジングなケースかなと思います。シンボリックな野口さん含めてお二人がいるところからの起点なので、やはりスポーツクライミングであるからこそ、スポーツクライミングが持っている特殊性みたいなものはありますし、挑戦したりとか独特の哲学があると思うんですよね。それを浸透しながらトップアスリートと呼べる、世界に近いというのを活かしながらやっていくとかなり浸透していくのではないかと思います。
田畑委員	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
浅野委員	スポーツクライミングの環境整備のところで、1 つ付け加えた方が良くないかと思ひまして、環境整備で壁を作るというのがここに書いてありますが、龍ヶ崎市クライミング協会のような組織は現時点ではないですね、それを作るというのをここに盛り込んで環境整備という意味で、来年度からできることとしてアクションプランに盛り込んでいただけたらと思います。 クライミングをやっている保護者や競技関係者を中心に、実際に龍ヶ崎市のスポーツ協議会や少年団等に入って、会議の場とかに出られるような組織づくりというところでやっていければ良いかなと思います。茨城県山岳連盟とかだとダイレクトに誰がコンコースをつけるとか、誰を派遣するとか物理的な話になってしまいます

	ので、龍ヶ崎近辺の県南エリアはクライミングをやっている方が多いので、その方々を中心として組織を立ち上げていけたら良いかなと思います。鉾田市でも同じようなスポーツ少年団を創設する時に、市役所のスポーツ課の担当者が加盟方法等について教えて下さり、委員の中にも入っていただいて立ち上げたという経緯もあるので、その点アクションプランの中に盛り込んでいただければ、より一層話が進みやすいのかなと思います。
田畑会長	ありがとうございます。市内においても様々なスポーツ団体が活動していて、また市民からの公募で集まったスポーツ推進員協議会のような組織があります。 いきなりその協会を立ち上げるというのもクライミングの人がメンバーに入っ、スポーツ推進員協議会等と共に活動する中で理解を深めていく必要があるかと思っています。私もこれまで別件でそのような環境整備をするために協会の創設に携わったことがあります、やはり環境づくりをしていくことが非常に大切であると思います。 ほかにいかがでしょうか。この審議会についても第 3 回目の審議会で答申をまとめることになっていますので、本日については実際のアクションプランの項目として 1～10 まで掲載されているので、こういった議論が具体的なところに反映していきますので、今一度資料に目を通して皆さん方でご意見いただければと思います。
事務局	浅野委員よろしいでしょうか。先程のお話の中であった協会の組織づくりの部分で、チームのような組織という意味で繋がってくるかと思いますが、浅野委員が対象としてイメージしているのは、学校連携の部分に地域クラブ活動化というのを含めてアクションプランに盛り込んだ方がいいのか、それとも子どもから大人、高齢者まで含めた幅広い層を想定してイメージをしているのでしょうか。
浅野委員	そうですね、子どもから大人まで入れた方が良く、さらに言えば茨城県山岳連盟というのは、色々な会があって、例えば大子町山岳会や茨城県スポーツクラブ、それぞれの地域に存在している会であったり、その他、企業で作られた山岳会等が加盟していただいておりますが、将来的には龍ヶ崎市もそのような組織を作って山岳連盟に加盟すれば大会とかもやりやすいのかなと思いました。
田畑会長	よろしいですか、今のお話ですが龍ヶ崎市がスポーツ協会の中でそのような団体を立ち上げた場合、上位団体である茨城県山岳連盟に加盟する必要があるわけですね。
浅野委員	必ず加盟しなければならないということはありませんが、協力関係になれるというところがいいのかなと思います。特に加盟したからと言って、年間で大きな費用がかかるということはありません。
田畑会長	先程、委員のみなさんからお話がありましたように、実際これらのアクションプランを動かしていく上で、様々な関係団体と協議会とかもあるので、その繋がり的大事にしていく上で、加盟しておいた方が良いということですね。ありがとうございます。 他にございますか。
木村委員	先程、塚本委員からもお話がありましたが、前回の会議の中で学校にも壁を作っても良いのではないかとお伝えしましたが、これまでの話を聞いていると、幼児施設にそういった施設があることが望ましいのかもしれないと感じました。 渡部委員から愛宕幼稚園にもそういった施設があると初めてお聞きしましたが、幼児施設にそういったクライミング施設があると良いなと思いました。 例えば、たつのこやまに壁ではなくてもホールドがあって触れられるようなものでも良いかなと思います。壁だと小さい子でも落下する危険性があるので、小学校の休み時間とかにもやらしてあげたいと思いますが、一方で万が一怪我でもしたらどうするんだという心配があります。親も見ていて落ちるという心配がなく、楽しく子どもたちが競って遊べて、触れるような仕組みが大切ではないかと思っています。 学校の施設だけではなくて、そういう施設があればお金がかからなくてもそこに行って遊びの中で体験できるような場所があっても良いのかなと思いました。
塚本委員	先程からシンボリックな大会という話が出ておりますが、この資料にワールドカップやジャパンカップというのは、近々でいつ頃開催されるのでしょうか。

渡部委員	B J Cと言われるボルダリングジャパンカップ、種目ごとのジャパンカップというのがありまして、今年度中に別々の開催地で実施されます。例年 2 月に行われるボルダリングジャパンカップを皮切りに、順番が前後してしまうかもしれませんが、スピードジャパンカップ、リードジャパンカップの 3 種目が行われます。 ボルダリングは東京都の駒澤で開催され、スピードは今年国体を開催した佐賀県、リードに関しては三重県で開催されます。 本来であれば、あまりバラバラで開催しない形が良いのですが、日程的な問題や開催場所の都合であったり、例えば佐賀県に関しては高校の中の施設で行うので、センター試験と重複しないようにといった事情がありますし、リードの会場に関しては、企業で所有している施設を借用して行うので、他のイベントと重複しないようにといったところがあります。その他、クライミングの種目を行っている東京都の駒沢体育館もおそらく 1 年くらい前から施設予約する必要があったりして、結果的に会場がバラバラになってしまうのが現状にあると思います。 1 つの施設で完結できないのは、そういったシステム等の問題があります。 それらの大会については、例年、年度末に開催しているのが現状です。 次の次の大会の開催に向けては、1 年前から開催に向けて動き出していますが、けっこう直前まで日程が決まらないパターンが多いです。 その理由として、主催者側にまず金銭的に余裕がない、そうすると開催地の持ち出しが生じたり、大会スポンサーの集まり具合によって、やりやすい場所とか理想の場所ではないところで大会を開催せざるを得ないというのが現状です。 ワールドカップに関しては、来年の日本開催はないですが、その次の年ですね、龍ヶ崎市で大会を招致するとなると、前回、日本で国際大会を行ったのは、おそらく東京都の八王子か岩手県のコンバインドワールドカップだったか曖昧ですが、いずれにしても事業としては赤字になっているというのが現状で、かなりハードルが高いのは事実ですし、その点でいえば龍ヶ崎市が招致して、龍ヶ崎市が主導するわけではないので、具体的に大会をどのように行うかというのも運営しているのは日本スポーツクライミング協会ではなく、実際はクライミングを経験していない方々が運営をしているというのが現実です。そうするとまちとしてこういう大会にしていきたいということと、ワールドカップを一緒に行うというのは、かなり気合と時間が必要になってくると個人的には思っています。
塚本委員	ワールドカップは 4 年に一度ではないのですか。
渡部委員	クライミングに関しては毎年開催しています。個人的にはかなりワールドカップの価値が下がってきていると感じています。スポーツクライミングの種目がオリンピックに採用されてそれを重視したいという考え方が増えて、ワールドカップを開催するにはかなりのコストがかかるため、アジアであったりヨーロッパではツアー戦のようなワールドカップよりも規模が小さくて新興国で開催されるような国際大会が増えていきます。そのような大会の方が運営もしやすいですし、招致もしやすい、開催地としての意見もかなり反映できる大会にはなると思いますが、一方で前年オリンピックに出たような選手が出場するかといった将来の可能性は高いですし、その点をどうするかだと思います。 国際大会の観点でいえば、必ずしもワールドカップでなくても良いかと個人的には思っています。
事務局	補足ですが、龍ヶ崎市としては、来年行われるジャパンカップの招致をしていきたいと考えておりますが、その中でリードとスピードは高さが必要になってくるので、もう一つの種目であるボルダーをニューライフアリーナ龍ヶ崎で仮設の壁を設置して招致できないかと考えております。
渡部委員	スポーツクライミング側の質問として、アスリート支援でいくらかかるのか、もしかしたら市が試算しているかもしれませんが、年々かかるコストや出場する大会等、アスリートによって様々な形態があるかと思いますが、市として具体的に補助に関する対象人数や金銭面でどの程度の範囲で支援を考えているのでしょうか。
事務局	具体的な金額の範囲については現時点では決まっておりませんが、補助制度に関しては、全額補助は厳しいと考えております。周りが応援する機運を高めていった上で、資金調達が絡んでくると思っています。

	例えば、横須賀の取組でいえば、企業版ふるさと納税を募ってそれを受け入れた金額を強化指定選手に応じて割り振るといった制度があります。金額の範囲としては、世界に行く上では相当な金額がかかるといいますし、全額補助は現実的に無理なので、市としての予算の範囲で行っていくということでは今のところ言えませんが、そういった部分については今後協議していき、上回る分については企業版ふるさと納税やその他の手法を活用していく取組になるかと思っています。
後藤委員	今事務局から話がありましたが、予算の部分で前回の会議でも発言しましたが、例えば国・県等の補助制度を活用して、予算の面で10億・20億円出してもらって実施すると言うなら、私は何も反対しないですし、むしろ拍手して大会成功してねと言いたいです。前回も聞きましたが、本当にこの程度の予算で何ができるんだという予算しかもらってないみたいなので、その中でやるならむしろスポーツだけで名前を売るなら、例えば流通経済大学サッカー部がJ2でも加盟したりする方が確率は高いと個人的には思っています。 ただ、会議の冒頭にもお伝えしましたが、市民のスポーツに触れる部分で、スポーツクライミングというのは、野球とかサッカーとは違って、オリジナルな部分としてやってみる価値はあるかなと思います。日本全国ではあまりまだ広がっていない取組でもあるので、そういう考えるポイントとしては良いのではないかと思います。限りある予算の中でやはり進めてほしいという部分、この点だけは一市民としてもすごく思っているところです。この想いがあるからこそこの審議会にも参加させていただいております。市から特別な予算として1億・2億出すなら別の分野でお金をかけてもらいたいと切に思っています。
田畑会長	ありがとうございます。この審議会のメンバーについては、様々な団体の方がお集まりですので、その団体の代表としての発言になれば、例えばアスリートでいえばアスリート支援というところもありますし、市民代表でいえば市民目線というところもありますので、皆さんからのご意見を十分によく聞いた上で、できる範囲のところでアクションプランを実行していきたいと思っておりますので、その範囲でのご意見をいただければと思います。
橘川委員	アクションプランは3つくらいに絞って纏められるのではないのでしょうか。 イベントがあってそれに紐づいて人材育成とかどういう人たちが組織化していくのか、シンボリックなイベントを誘致する上でもそれに付随するお金だったりします。結局のところ、ボトムアップとして幼稚園から小学校、地域の人を取り入れていくのかといった視点で考えていくと3つくらいに絞っていいのかなと思います。 良くまとまったアクションプランであると思いますが、10項目も掲載する必要はないのではないかと個人的には思います。 それぞれ関連性があるということでお伝えしました。
田畑会長	そうですね、各委員からのご意見を参考にしながらアクションプランを纏めていきたいというところで考えております。 ほかにいかがでしょうか。
浅野委員	来年のジャパンカップの誘致に向けてということで、茨城県では鉾田市でユースフューチャーカップを日本山岳・スポーツクライミング協会主催で全国大会を開催していますが、どのような流れで行っているのかについては、鉾田市が主体で日本山岳スポーツクライミング協会に対してまず全国大会を開催する旨の申請をして、申請が通るまでは茨城県山岳連盟として決まるまでは表立っては言えないので、水面下で予定空けておくよう根回ししながら、人数集めをしたりして対応しています。 同じ県内で採択されている市町村があるので、そういった関連資料であったり、駐車場等の課題点について、色々聞きながら進めていけるので、来年来てもらえるのではないかとということで前向きに期待をしております。
田畑会長	ありがとうございます。ぜひ来年開催できればと思います。 他にいかがでしょうか。
渡部委員	そのジャパンカップに関連したことですが、ボルダリングジャパンカップは、観客動員人数の条件があったかと思います。人気度の問題でリード、スピードというのは正直ほぼ観客ではなく関係者ばかりです。

	その認知度であったり、イメージ、SNSやメディアで見ればボルダリングというイメージがあって話題として挙げられていると思います。ロープ無しで登るスピードに関して現実問題、色々市で考えていると思いますが、どこでやるのか、屋内でやるとなると限られていると思いますが、そもそもその人数が入るのかまず懸念点として考えております。屋内で無理だから国体の場合は仮設で開催していますが、そうするとレンタル代等の費用の問題や雨降った時に地面がぬかるんでいる場所に観客が入りたいとは思えないし、招致する場所の問題もあると思います。 開催に向けて地元の人の協力が必要であるという話が出ていますが、実際、国体を開催する場合は、開催に向けて 5、6 年前から技術スタッフの育成というのが常にキーワードになっていて、全く地域に根付いていないスポーツを開催するというのは、かなりハードルが高くて、クライミングでいえば、審判や壁を作るセッター等の関わる専門性の高い人材が近くにいないとなると、遠くから来てもらわなければならない、必然的に宿泊・交通費もかかってきます。 ボルダリングジャパンカップ開催に向けて、今から審判の資格を取得するのは時間的问题もあり現実的ではないと思います。茨城県山岳連盟であったり、関東近隣の資格を所有している人に依頼していくことになってくるかと思いますが、後手に回るとどんどん費用がかかってくると思いますし、ワールドカップは、飛躍的に費用がかかってくると思います。 橘川委員がおっしゃるようにアクションプランを絞った方が良いと思います。 アスリート支援でトップ選手への支援と掲載していると思いますが、現在トップ選手は檜崎智亜選手くらいしかいないので、トップ選手一人に支給するよりかは、チームがあって将来オリンピック出場が期待できる選手に支給した方が良いかと思います。 その他、市の激励金関係の支援について挙げると、現在は全国大会に出場してもプロの場合の報奨金は対象外となっていたりする状況であると思います。 例えば、壁も施設もない状況の中で、その規模感でクライマーが移住するというのも非常にハードルが高いと思います。
田畑会長	個別・具体的な部分で見えてしまうと、かなり難しい課題が見えてきてしまいますが、今回いわゆる全体像を示していくということにもなりますので、そのような観点からご承認いただくような形でお願いしたいと思います。 個別具体的な話については、今後、協議会の設置等で議論を進めていければと思います。とりわけ今回につきましては、全体像の部分でご意見をいただければと思います。ほかにいかがでしょうか。 概ね皆様方からのご意見も出て、議論が出尽くしたようですので議事の方は締めさせていただきます。 本日は、円滑な議事進行についてご協力いただきまして誠にありがとうございました。次回の会議について事務局の方からご案内をお願いいたします。
事務局	会長、議事進行ありがとうございました。 次回の会議につきましては、令和 7 年 1 月 17 日午前 10 時から開催したいと思います。本日いただきました意見を整理いたしまして、最終的な基本構想案として纏めまして、また再度ご審議いただければと思います。 なお、次回会議を効率的に行うために、本日の会議で不明な点や追加で質問がある場合は、事前にメールや書面にて事務局に提出いただければ次回の会議までに回答をご用意させていただきたいと考えております。 くわえて、会議冒頭に野口さんからクライミングのユース大会を開催する旨のお話をいただきましたが、基本構想に関するキックオフイベントとして 3 月 15・16 日に、野口さんと市が共催という形で、ニューライフアリーナ龍ヶ崎で開催することとなりました。 15 日土曜日は、小学 3・4 年生、5・6 年生の男女 4 カテゴリーで、実施いたします。 16 日日曜日は、中学 1 年生男女・2 年生男女・3 年生男女別の 6 カテゴリーで実施いたします。 詳細につきましては、次回の審議会の中でお示ししたいと考えております。

	また、報酬の振込等の依頼書や個人番号等の報告書関係等の書類について提出が必要な委員様におかれましては、ご提出いただきますようお願いいたします。 それでは本日の会議は以上となります。 長時間にわたり誠にありがとうございました。
令和6年12月に行われた審議会の内容については、上記のとおり相違ありません。 令和 年 月 日 会 長 _____ 委 員 _____ 委 員 _____	